

菅茶山顕彰会会報

第 32 号
発行

菅茶山顕彰会
2022年3月1日



松風館十勝碑林建立 15 周年事業
説明板設置、駐車場造成、記念誌発行（左上枠）など

菅茶山顕彰会創立 35 周年にあたり

菅茶山顕彰会会長 藤田 卓三

今年（2022）は、菅茶山先生遺芳顕彰会（現菅茶山顕彰会）が発足してから35周年記念年になります。本会は神辺町の有志と行政が一体となって、本格的な顕彰活動組織として立ち上げました。それから、廉塾での茶山祭や茶山ボエム、茶山ウィーク、茶山ボエムハイクなど「菅茶山」と冠した行事が行われ、「茶山文化」が地域に定着してゆきました。この機会に、「温故知新」の気持ちで先人たちの顕彰活動に学び、次世代への継承に値する活動を展開する年にしたいと考えます。

① 茶山詩学習会は会発足と同年（1987）に始まり、講師北川勇先生の講演録『茶山詩話』第一集〜七集は6年かけて順次編集・発刊されました。現在は「茶山学習会」として、茶山学習と会員交流の場として継続しています。

② 「菅茶山顕彰会会報」は会発足の翌年に創刊され、この本紙「第32号」まで、ほぼ毎年発行。地域の公的機関、茶山研究者などに広く配布しています。ホームページ「顕彰会ニュース」（2001年開始、現「菅茶山新報」）とコラボして、菅茶山研究、顕彰活動のほか、地域の話題などを掲載して「茶山文化」の発信に努めています。

③ 茶山ボエム絵画展の始まりは1993年で、以降毎年開催。菅茶山と子ども達や地域をつなぐ無二の行事といえます。菅茶山記念館とタッグを組みボエム絵画を通じて、茶山漢詩のすばらしさを伝えてゆきたいと思っています。

④ 5年毎に開催されている「菅茶山生誕祭」の起源は、95年前（1926）の「菅茶山没後一〇〇年祭」（北辰会主催）とされ、最も重要な菅茶山顕彰行事であります。来年（2023）は「生誕二七五年祭」の年になります。

⑤ 漢詩文で鳴らした菅茶山を顕彰する団体として、菅茶山関連の書籍・冊子の発行には多くの実績があります。今春「河相君推と松風館十勝」を刊行しました。

新会長としての責務は、コロナ禍で停滞した顕彰活動を修復し、会継続の地盤固めをすることです。特に新入会員の獲得と地域連携の緊密化が大きな課題と考えます。

私は、茶山晩年の輝きを顕した「晩照」という言葉に惹かれて、入会しました。この2年間で自分なりの晩照でありたいと思っています。どうかご支援・ご協力をお願いいたします。

特報！ 広島県教育奨励賞を受賞 地域文化の振興に貢献

本年2月3日付で、広島県教育委員会から、令和3年度広島県教育奨励賞（地域文化）を受賞しました。

この賞は、学校教育、社会教育、地域文化などを対象に「本県教育の振興・発展に寄与することを目的」としたものです。

表彰理由（功績等）は、『神辺における郷土文化の先駆者「菅茶山」を顕彰し、その業績を後世へと伝えていくため、昭和62年に「菅茶山先生遺芳顕彰会」として発足し、平成18年には、今の「菅茶山顕彰会」に改称し活動を行っています。

主な活動は茶山詩の研究、顕彰活動などを編集し、毎年1回会報を発行。5年を節目に記念式典・講演会を開催し、年次総会記念講演会や茶山学習会などを実施している。

県内一円および近隣の幼・小・中・高校の子供たちを対象に毎年行われている「茶山ポエム絵画展」は、福山市内外各所でも展示会を行い、菅茶山を多くの人に親しんでもらえる機会となっている。』としています。

これらは本会の継続した活動が評価されたもので、光栄至極であります。時恰も、本年は創立35周年記念年、2月2日は菅茶山274周年生誕日、お祝いと激励を頂戴しました。これを励み



に、更なる高みを目指して菅茶山顕彰活動を一層活性化したいと考えています。

松風館十勝碑林プロジェクト完了

「記念誌」発刊で締め

平成18年、神辺町が福山市に合併した早春、本会は神辺町西中条山田に「松風館十勝碑林」を建設した。そこは菅茶山が屢々天下の文人と共に訪れ、名詩を詠んだゆかりの地だが、現存する石碑が一基しか残存していない故だろうか、意外にも地元でもよく知られていない。

そこで令和2年から2力年の再整備活用事業「茶山顕彰と町づくり」をスタートした。初年度、十勝碑林説明板設置及び駐車場を付設。次いで本年2月、出版事業として記念冊子『河相君推と松風館十勝「菅茶山と中條村の文人たち」』（62ページ）を発刊。

冊子は地元中条学区をはじめ市内の関係機関・図書館並びに町内の学校・公民館等に届けた。なおコロナ禍のため、記念行事の開催は断念した。

2力年にわたったこの事業の資金については、新設された「高橋孝一基金」からの拠出ならびに一般財団法人義倉（藤原平理事長）から2年連続給付の助成金を活用した。コロナ禍中、前途と周囲を照らす光明として深甚の敬意と感謝を捧げる次第である。

また、事業記念として、「枝垂れ梅」および高橋孝一様記念樹「枝垂れ桜」の植樹を行った。年々歳々、開花の爛春に集い、故人を偲びたい。

今後の活動は、まず多くの人に知ってもらうことであり、昨年の「「かななべ浪漫」（神辺町観光協会発行）に紹介記事掲載を嚆矢に、各方面への広報活動を続けたい。また、近くの象山献燈や河相家墓域とのエリア紹介、碑林の定期的なメンテナンスなども課題である。

廉塾修復活用工事の近況

祠堂修復年度未完了、講堂修復始まる 福山市文化振興課に訊く

当初二〇一九年着工、二〇三一年完了予定の廉塾修復計画は、事前の発掘調査やコロナ禍もあり、第一期工事の祠堂修復についても遅れていたが、令和三年度末に完了の見通し。来年度は講堂の実施設計を行う計画である。

一、祠堂修復・祠堂とは、

「祖先の霊を祀る場所」で一般家庭の仏間に相当します。菅家の祠堂は、四畳半二間（一部屋は床の間付）の建物で、二間続きの祭壇が設けられ、茶山の父母、樗平・半に始まり茶山とその一族の位牌が安置されていたが、修復工事中は別の場所に移動して施工している。



修復中の祠堂



講堂（仮屋根）

・修理は「半解体修理」で、部分的に解体し、破損個所の修復を行う。

①屋根瓦は全部取り換えた。②木工事については、浸水被害・シロアリ被害による床組部材の破損が著しく全部取り換えたが、他は腐朽部分の修復工事を行った。③建具には大きな破損は確認されなかったが、建付け調整をした。

・修復中、目に留まったこと

①建築年代の判る墨書などは発見されなかった。また、移築・改変の痕跡も見つからなかった。②梁に半月形の垂木が使用されているのが珍しい。

二、講堂修復計画

来年度実施設計、令和六年度完成予定。基本的には、国特別史跡指定当時を適切に保存し次世代へと確実に継承していくことです。

史跡の持つ「本質的価値」（歴史的役割等）と「構成要素」（廉塾・付属施設、茶山旧宅祠堂、米蔵・納屋・馬小屋・物置、書庫等）を明確化し、それらを適切に保存・活用していくための方向性、方法、現状変更等の取扱基準などに則り、実施していきます。

いあいさつ

公財ふくやま芸術文化財団

菅茶山記念館館長 宇田 昌洋

二〇二一年（令和三年）四月一日付け菅茶山記念館館長に着任いたしました。菅茶山顕彰会の皆様には、平素より、記念館の活動に

格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます

この度は、広島県教育奨励賞の受賞おめでとうございます。これからも地域文化の振興にご活躍頂きますよう期待します。

去る十一月二十三日には顕彰会と記念館の共催事業として「第三十九回 茶山ポエムハイク」を開催しました。参加者のみなさんと、堂々川砂留群、寒水寺、渡部好右衛門義拳碑、備後国分寺、下御領八幡神社等、茶山ゆかりの地や史跡を訪ね歩き、土肥徳之さん・黒瀬道隆さんの丁寧なご説明で楽しく有意義な時間を過ごすことができました。日頃の運動不足を痛感させられた一日でもありました。

同じく共催事業の「二〇二一年度 茶山ポエム絵画展」には三千点を超える応募がありました。その内の入賞作品約五百点を三月十八日から四月三日まで記念館に展示し、園児・児童・生徒のみなさんの個性豊かで独創的な作品の数々をご鑑賞頂く予定にしています。

二〇二二年度は、福山城築城四〇〇年を迎えます。記念館も地域の方々と協力して実施する記念事業を計画していますので、ご期待ください。

引き続き、顕彰会の皆様と連携を図りながら、郷土の歴史文化を後世に継承する活動に努めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

目次

菅茶山顕彰会創立35周年にあたり

広島県教育奨励賞を受賞

松風館十勝碑林プロジェクト完了

廉塾修復活用工事の近況

ご挨拶 菅茶山記念館館長 宇田昌洋

廉塾の今昔に懐いを馳せて 井上謙二

廉塾生への追悼詩(一) 黒瀬道隆

茶山ポエム絵画展雑感 山下英一

熟老の年賀状 上泰二

顕彰会だより

令和3年度第2回理事会

茶山墓参の集い&巨楠伐採の経緯

故会員遺族から茶山関係図書の寄贈

学習会「茶山と後継者問題」

茶山ポエムハイク

ふるさと体験 かなべ史跡めぐり

展示会・講演会

県立歴史博物館「菅茶山関係資料」ご案内

菅茶山記念館「菅茶山と頼山陽」

「神辺本陣について」

「菅茶山ヒストリア」

「安政大地震と神辺宿の人々」

黄葉だより

小惑星 Karsadan と天文学

福大 地元と絆結ぶ未来創造館

堂々川ホテル同好会 会報通算200号

高橋孝一著「びんこばあ」へのオマージュ

会員ひろば

アンケート「私の好きな漢詩文」

茶山ポエム絵画

廉塾の今昔に懐いを馳せて

本会元副会長 井上 謙二

昭和十四年春、神辺北小学校四年生へ転入学した。住まいが廉塾の近くで、これが菅茶山翁を知るきっかけとなった。しかし、廉塾にはご当家が住んでおられ、門前より邸内を垣間見るだけで、子供の私にはまったく関心はなかった。

時は流れて、平成七年図らずも神辺町より教育長の依頼を受けて、神辺町の教育・文化にたずさわり、菅茶山顕彰会の活動を知った。教育長を辞すると同時に、顕彰会に入会して活動に加わった。茶山翁の『筆のすさび』の現代語訳には一年餘の歳月を費やし、富士川英郎氏著『菅茶山』も熟読した。

顕彰会の役職を終えて十年、藤田会長からのお声かけもあり、久々に廉塾に出かけて、ひと時感慨に耽った。

歳老いて今は何のお役にも立たなくなつた我が身と廉塾の姿を重ねて憶う時、過ぎて再び帰らぬ疎水にことよせて拙詩を作り出した。

廉塾覧古

れんじゅくらんこ

墨客尋翁解旅装

墨客翁を訪ね旅装を解く

交歓一夕意軒昂

交歓一夕意軒昂たり

青衿誦読無今聴

青衿の誦読今や聴く無し

惟有當年古塾堂

惟だ当年の古塾堂有るのみ

令和三年師走

井上 水月

(大意)

文人墨客が茶翁を慕つて、廉塾に旅装を解いた。一夜は酒交と学問、風物などの話題で大いに盛り上がった。

しかし、今は書生たちの誦読する聲を聴く事もなく、惟、往年のままの廉塾の古い建物が有るのみである。

廉塾生への追悼詩(一)

副会長 黒瀬 道隆

近隣のみならず、全国から集まった塾生は、さらに三都へ遊学したり、故郷で開塾したり、藩儒に登用される者もいた。

しかし、志半ばにして死去する塾生もいた。没した塾生への追悼の詩を黄葉夕陽村舎詩に見ることが出来る。入塾中に没した塾生について述べてみたい。

○三谷尚玄の死去
文化6年(1809)正月9日、讃岐国から入塾し、学がなつて帰国直前の死去。

茶山日記に「八日、雨、三谷尚玄没す。没時、午(午後)を過ぐ」とあり、網付谷の菅家墓地に葬られる。

三谷尚玄墓誌 黄葉夕陽村舎文 二一十一

「三谷は其姓、尚玄は其称、名は異、字は子功、讃州金倉の人、来りて余が塾に、備後神邊驛に学ぶ。業成りて将に帰らんとし、適病みて没す。文化己巳正月九日なり。權りに驛の東南網付谷に葬る。年二十三、人となり方面長身、沈敏にして才有り、苦学篤

行、傍ら医及び詩を能くす。翹翹として諸生の秀たり矣。才を抱きて夭するは古より少なからず、斯の人の善を為して、亦た免る能わざる邪。噫。(もと漢文)

語註「翹翹」群れに抜きんでている様。(噫)あわれみ痛む声。

文化4年の暮れに茶山が詠んだ詩である
即事贈三谷子功諸子 前編八一十二

寒夜 衰翁 夢驚き易し

愁心空しく伴う一灯の明るきに

書寮 頼いに君が曹の寓する有り

喜びて聴く 伊吾 暁を徹する聲

語註「衰翁」老人、茶山を指す。「書寮」廉塾の寮。「曹」部屋。「伊吾」読書や歌の聞こえる様。

(大意)
茶山は廉塾規約の中で「素読は毎日すること」「詩は妄りに作らず読書を第一にすること」としており、読書を奨励している。寒夜に夜遅くまで素読の声が聞こえてくるのを喜ばしく思っていたのであろう。当時、三谷尚玄はその書寮の寮長であったので、彼に期待を寄せていたことが先の碑文で分かる。

(次号へつづく)



尚玄の墓

茶山ポエム絵画展雑感

理事 山下 英一

茶山ポエム絵画展が始まりましたが、中国新聞2021年9月8日付けの新聞に、2件の気に止まる記事が掲載されていましたので雑感を述べます。

1件目は福山市の備後一宮吉備津神社の50年振りとなる本殿の保存修理工事が本年12月に落成を迎えるとの事です。この修理には、日本に伝わる17分野の内の14分野の各工匠が集まり、技術も素材も次世代へ継承するべく作業をされています。正に職人の技が日本の文化を将来に伝えていくのです。私達はこの様な所にもっと目を向ける必要があると思います。

さて廉塾・菅茶山旧宅整備事業は若干の遅れは出たものの、着々と修復工事が行われております。昨年12月に福山市文化振興課の担当の方から、工事内容等の解説及び説明を聞き、当初持っていた不安等は払拭されました。

吉備津神社の修理の一例で言いますと、一枚の板で部分的に腐食箇所がある場合、その部分を削除して新しい部材を張り合わせて復元する作業（古材繕い）が、廉塾の修復でも行われていることが判りました。廉塾の基本理念は「国特別史跡指定当時を適切に保存し、次世代へと確実に継承していく」です。これらを合わせて想像してみますと修復完成後は素晴らしい廉塾になり、神辺に住むものには大きな宝物が出現することになると思われます。

今、顕彰会では会員の高齢化が進み会員の減少が続いています。会ではどのように新会員を募るのかと大きな課題があります。菅茶山と廉塾は正直なところ余り知られていない。どうすれば知ってもらえるか考える必要があると思います。そのためには、①廉塾整備事業の進捗状況をどんどん出すべきです。②小・中学生を対象にした行事の考案。③菅茶山記念館をもう少し活用する行事の考案。等ももっとも広報に力を入れる必要があります。

2件目は茶山ポエム絵画展に関する事です。毎年3000点を超える応募があり、児童、生徒にとつては貴重な情操教育になっています。私は絵の審査員として参加させて頂いていましたが、例年の如く嬉しい反面、審査には苦労をしました。

昨年は皆さんも存じのように「鬼滅の刃」が大ブームとなりました。放課後児童クラブで教室に行きますと、自由時間の遊びといえは鬼滅の刃の塗り絵ばかりでした。彩色は見た絵の通りで皆が同じ色、それは茶山ポエムの絵とは真反対の絵なのです。そこで絵の好きな私は自分の絵で自分の色で描き、それを児童に見せますと一様に驚いていました。

呉市にお住いの71歳になられる女性絵手紙作家で特別非常勤講師の方が紙上で述べられている事を一部紹介します。「絵手紙に失敗はない。みんなを笑わせれば大成功」、高学年になるとタブレット端末を使って似たよう

なものを描くがそこには「自分がいない。線も集中して引かないと生きたものにならない」「どの子も、もっと自分らしさを出せるようにしてあげたい。自分の色を引き出してあげたい」と話されています。

茶山ポエム絵画展は子供の成長に大きく寄与していると思います。今後さらに発展して行くよう微力ではありますが協力して行きたいと思っております。

熟老の年賀状

顧問 上 泰二

平成22年元旦の賀状に、「謹賀新年」に次いで、茶山詩を拝借、「熟老七十五 卻幸多年違會面 夢中仍見舊時姿」の心情に共感的理解・・・と書き出した。それ以降、このスタイルを踏襲した。

「有感」菅茶山 75歳 遺稿巻二―三

偶然臨鏡鬢如絲

偶然鏡に臨めば鬢絲の如し

千里知君亦老衰

千里知る君亦老い衰うるを

卻幸多年違會面

卻つて幸とする多年會面に違ひ

夢中仍見舊時姿

夢中、仍見る旧時の姿

の詩中、第三・四聯からの引用である。

(文意)

「偶々、鏡に向かい、鬢の毛が白く糸のようになつてゐるのに吃驚した。さこそこのように、遠く離れた旧友も老い衰えていること

だろう。お互いに会う機会がなくて却って幸いか。何時いつまでも、若く瑞々しい昔の姿を夢見ていられるのではないか」

この前年、再就職先を退職、当時の井上謙二副会長の勧誘を断り切れず本会へ入会。武村充大編集長下、会報編集業務に携わることになった。

当時、「茶山会報に茶山詩が一首もないとは？」との批判が寄せられていた時代。筆者、固より、昭和2桁代のチンブン漢文族、畑違い役向きに周章狼狽、走りながら、専ら先人の足跡を道標に剽窃紛いの記事を書きはじめた。一方、可能なかぎり、市内外の公民館等主催歴史講座や県博「茶山関係資料」等の常設展示会などに出席、取材を兼ね学習を重ねた。十年一昔。顧みれば、その未熟さに冷や汗を超え、慚愧の念すら覚えることしきり。

友は、概ね「茶山先生80歳の元旦にして、「廻頭志業一無成と回顧している」と慰留してくれるが、足許にも寄れない。天地の差。とまれ、これを機に、賀状に、同年代の茶山詩を引用することが多くなった。

平成30年の賀状では、
「酔聞童子論耆舊 驚見吾齡長一郷 菅茶山」
(77歳 元旦 遺稿巻三) を引用している。

元旦 菅茶山 遺稿巻三――

鶴髪皤皤映羽觴

鶴髪皤皤羽觴に映じ

屠蘇憶昨最先嘗

屠蘇憶う昨最も先に嘗しを

酔聞童子論耆舊

酔ふて聞けば童子の耆旧を論ず

驚見吾齡長一郷

驚き見る吾が齡一郷に長たるを

(文意)

最年少者から順次高年者へ廻すのが礼式の屠蘇の杯に、自らの白髪が映し出されている。ついこの間まで、自分が真つ先に飲んでいたと思うのに、酔ってそれとなく耳を傾けていると、若者たちが誰が最年長かを論じ合っている。自分が郷里の最長老だ と話しているのに吃驚。

令和3年、熟翁、86歳、傘寿以降、当該年齢相当の茶山詩もないばかりか、気がつけば「吾齡長社友」。老兵は消えゆくのみか。コロナ禍が寂寥に拍車をかける。唯々、茶翁が歳末・初春の詩中、不変・不屈の結聯に倣って顕彰会の「一時迎歳又迎春」(三元日立春戊寅)後編巻八)を祈願してやまない。

顕彰会だより

一、定期総会書面決議事項案審議

〈令和3年度第2回理事会〉

例年5月初旬開催の定期総会はコロナ禍感染拡大防止のため書面決議。令和3年度新たに選任された理事による総会提出議案審議のための最初の理事会が7月10日が招集された。

藤田卓三氏が第4代会長に選任された。氏は令和元年から副会長として名実ともに会長補佐役を務めた。「evolution (改善)」と「ほうれんそう (communication 報告・連絡・相

談)をコンセプトに、本会所期の目的のため、先ずは会員増加と茶山学習の充実を目標にしたいので協力願いたいと話した。

今年度定期総会は書面決議とし、その後変更を余儀なくした前年度事業報告・新年度計画などについて逐次議決事項を確認、一部修正を決定した。

①令和3年度(2021)新役員名簿一覧

(順不同、敬称略、*印 常任理事)

・顧問 鶴野謙二・上泰二・宇田昌洋

・会長 *藤田卓三

・副会長 *武田恂治、*黒瀬道隆

・事務局長 *武田恂治(兼務)

・理事 *川崎行輝、*松岡明美、
羽原知子、小林貞子、
山下英一

・会計 *嶋田時市
・監事 皿海弘雄、安原三津代

②松風館十勝碑林関連行事 前掲

③特別追加議案可決

「高橋孝一記念基金」設立について

基金設立(案) 可決・成立

【経緯】昨年度末2月、故高橋孝一氏ご令室靖子様から顕彰会へ「顕彰会活動に役立てて欲しい」と高額のご寄付を頂戴した。

会員一同、ご厚志に感謝すると共に、一般会計とは別に「高橋孝一記念基金」を新設した。顕彰会の継承・発展に必要な事業・出費で一般会計では困難な場合に、有効利用させていただくことになった。

二、茶山墓参の集い

〓 巨楠伐採後、初の命日〓

茶山命日の8月13日(金)朝、小雨が断続する中、菅茶山墓地で、恒例の墓前祭を行った。コロナ自粛+大雨警報中だったが、藤田会長以下役員8名が出席、例年どおり、霊前に香を供え、故人の冥福を祈った。

本年は茶山先生没(文政10年)後、195年。頼杏坪撰書の墓碑の終わり「道照千秋」そのまに、菅茶山の遺芳・遺徳が行く末長く受け継がれて行くことを祈願した。

なお、古来、茶山霊廟前で墓域を見守って来た巨楠伐採後、とみに雑草の繁茂が目立ちだした。墓所と参道の整備を理事有志で行った。雑草の伸長を見かねた近隣の下宮啓一・下宮進両氏が斜面の草刈りを実施。(5・10月)感謝に絶えない。

*巨楠伐採の経緯

福山市文化振興課によると、巨木となった楠の根が菅茶山の墓の玉垣を押し上げ、毀損の原因になっていたこと、また大きく成長した木枝が隣接する市道及び民家へ延び落枝による危険があったことから、史跡の毀損拡大防止と安全確保を目的に事業を実施した。

2019年3月に所有者と文化振興課職員で現地確認を行い、伐採することとなった。

事業は県の補助事業として実施し、2020年3月に楠の周囲に足場を設置し、



伐採を行った。

なお、昭和62年頃に実施された旧神辺町教育委員会による樹木の悉皆調査によると、目通り6.2mとされている。

三、故会員遺族から茶山関係図書への寄贈

〓 北川勇・松井義典・武田武美各氏

11月9日、故松井義典氏(西中条 本会元顧問)所蔵の『県史』28巻がご遺族のご意向に添って、福山平成大学に寄贈された。

同大では「松井文庫」として、同大図書館に配架、末永く学生・教職員・一般などの参考に供する。市瀬教授からは「このご縁を大切にさせていた、できれば・・・」と謝辞。

これを機に、大学と本会の文化交流が更に進み、併せて松井氏がこよなく愛した菅茶山など故郷の偉人が、若い世代によって光を浴びることを希ってやまない。

*茶山を深く識るために

これまでに、北川勇氏・武田武美氏・松井義典氏から、菅茶山記念館や顕彰会へ茶山関係図書が寄贈されている。主なものは次のとおり。茶山を深く識り、次世代へ継承してもらうためにも、活用していただきたい。

〇『茶山詩話』一〜七集 菅茶山先生遺芳顕彰会発行

*北川勇氏の講演を記録した書籍

菅茶山入門書として最適の書

〇『菅茶山 上・下』富士川英郎著

福武書店

*茶山の生涯と交友関係を詳細に記述。

茶山研究には必携の一冊

〇『菅茶山』西原千代著 白帝社

*茶山の遊学と交友関係や茶山詩の特徴など紹介。茶山詩の内容研究には必携

〇『茶山詩五百首』北川勇・島谷真三共著 児島書店

*『黄葉夕陽村舎詩』・『集外』中の五百首を選び解説。丁寧でわかりやすい解説

これらの書籍は神辺図書館でも閲覧できるし、貸出しも可能な書籍もある。

(黒瀬道隆)

四、茶山学習会

「茶山を悩まし続けた後継者問題」

〓 日記と詩から読み取る茶山の苦悩〓

菅茶山記念館(3回連続講座)

講師 本会副会長 黒瀬道隆氏

学習資料 テキスト・菅茶山系譜など

第1回 7月24日 出席者 23名

猛暑の続く中、茶山学習会が開催された。会員以外の参加者もあり、コロナ感染防止の会場は補助椅子も使うほどの満席で、講師の名調子とこのテーマに寄せる関心の深さが感じられた。

子に恵まれなかった菅茶



山が、後継者についてどう考えていたのかをテキストを基に、講師の熱弁。聴講者は、黄葉夕陽村舎の存続、自身の後継者について思いどおりに行かない茶翁の苦悩を身近に感じた。

第2回 11月6日 出席者 14名

学習に先立ち、記念館で特別展示中の「菅茶山と頼山陽」展を同館職員の藤井由美氏の解説で鑑賞した。展示物を観ながら菅茶山と頼山陽との出逢いを確認し、掛軸などの筆跡からもそれぞれの個性がよくわかった。

メインテーマ「連続する親族・縁者の死と後継者問題」の講義で、50歳を過ぎてから続く親族の不幸に耐え、藩儒、教育者・漢詩人として励みながら、後継者に苦悩した茶山を我が事のように慮んばかった。

テキストには菅茶山の日記に基づく年史が詳しく書かれており、今後の菅茶山研究にも役立つ。

第3回 12月4日 出席者 10名

テーマは前回の続編。黒瀬講師から、茶山78歳から亡くなるまでの出来事・茶山の思い、さらには没後の後継状況などを、『茶山の日記』や漢詩文を中心に学んだ。また菅茶山系譜（茶山父母以降の子孫）や『茶山の日記』に登場する人物の説明もあった。

本会発行の北川勇先生講話集『茶山詩話』には、茶山の晩年を「茶山晩照」とあるが、茶山が妻の死、本人の病氣にもめげず、死の直前まで漢詩を創り、客人を好み、廉塾存続に心を砕いたことに、参加者も感銘を受けた。

*茶山の兄弟姉妹

・妹 瀧（16歳で没）

・次弟 汝梗 松岡家入婿（30歳で没） 長作誕生（萬年・のち茶山養子）

・次女 チヨ 井上源右衛門へ嫁ぐ 敬誕生（のち萬年と結婚、菅三を授かる・萬年没後、霞亭へ再嫁）

・三女 マツ 河田家へ嫁ぐ。夫、没後、荒木家へ再嫁）

・末弟 恥庵 家督を継ぐ。桑田氏谷と結婚。京都で開塾。

*後継者問題

天明2年 35歳 妻為没。子なし

天明4年 37歳 妻宣と結婚。子なし

寛政9年 50歳 長作・佐保（チヨの子）

寛政12年 53歳 恥庵、京都で客死。

文化6年 62歳 頼山陽を都講として迎える。（茶山は内心、山陽を後継者と考えていた。）

文化8年 64歳

①山陽、三都での修学に固執、上洛

②萬年（甥・養子）病没、享年39歳

（妻 敬との間に 菅三が誕生。）

文化10年 66歳 北条霞亭を都講として迎

え、文化12年、霞亭を敬と娶せる。

文政3年 門田朴齋24歳を養子とする。

文政6年 北条霞亭、江戸で病没

文政10年 80歳 死没直前、朴齋を離縁。

菅三（惟縄・自牧齋）を養子とする。

*菅三は四児を授かるがすべて病没。万延元年、51歳で没。

*晋賢（朴齋の五男）が明治5年、学校制度が確立されるまで廉塾を継いだ。

五、茶山ポエムハイク

菅茶山記念館・菅茶山顕彰会共催

副会長 武田 恂治

11月23日、第39回茶山ポエムハイクが行われた。昨日の雨が嘘のような晴天の朝、気温は低いが絶好のハイキング日和。茶山ゆかりの地や、周辺の史跡を訪ねる恒例行事がスタートした。心地良い冷気が頬を掠める。

本会会員や一般参加の人たち、総勢30人のグループは、堂々川一番砂留駐車場へ集合。宇田館長の開会の挨拶後、堂々川砂留群・紅葉の山々に見守られながら歩き始めた。約4.3km・3.5時間のウォーキングにチャレンジ。

堂々川公園までは、土肥徳之さん（堂々川ホタル同好会長）が案内役。堂々川は高屋川の支流で、周辺に植栽している彼岸花は23種類の色があり、毎年5千株の新しい球根を植えている。延長4kmの溪流で花崗岩の地層は風化、荒廃するばかりで、度々災害に見舞われた。この為、江戸時代には福山藩も広域にわたって砂防工事を実施していた。現在の堂々川流域には、16基の砂留があり、城壁を思わせる石垣は今も健在で、重機に頼らない当時の技術水準の高さを示しているとの事。

寒水寺参道入り口からのガイドは黒瀬道隆さん(本会副会長)にハイ・タッチ。

明尾山寒水寺は、真言宗大覚寺の古寺。養老2年(718)草創と言われる名刹。元々、天台宗だったが、空海によって真言宗に変わったと云われている。今は木立の間となるが、神辺平野が一望できるこの場所は昔から景勝地として知られている。

寺から下山して、渡邊好右衛門義挙碑へ。「明和の一揆」の義挙と経緯を学ぶ。

続いて、楷の黄葉が映える境内を通り、唐尾山国分寺に参拝する。天平13年(741)聖武天皇が五穀豊穰と国家の平安を祈願して、全国の国ごとに建立した官寺である。延宝元年(1673)大原池の決壊による堂々川の氾濫で壊滅してしまった。その後、第四代福山藩主水野勝種によって再再建された。門前にある茶山詩碑「聯句戯贈如實上人」と茶山歌碑を見学する。

「国分寺の如實上人は歌人でもある。珍しい変わった草花を好んだ人で、花のためには逆立ちも辞さないほどの入れ込み方。毎年珍種を買い求めるため、寺から里へ出てお布施



寒水寺本堂

をもらっていた。」と、茶山詩の中にも美しい花を愛でる詩が多いのも、この上人の影響があるかも・・・。



国分寺 詩碑説明

最後は、石柱「近世山陽道道しるべ」を移設先の下御領八幡神社境内で見学し、元々あった国分寺門前に移動する。ここは山陽道と西行きの「石州ぎんざん道」の分岐点であり、また室町時代に「古代山陽道」を神辺方面に行く「近世山陽道」に付け替えた歴史的な地点でもある。

コースを予定通り踏破し、参加者一同は帰途に。色鮮やかな紅葉を満喫し、二人の講師のウィットに富んだ解説に堪能、「故郷の歴史を学びながらの楽しいハイキング」全日程を終了した。

参考

*堂々川公園―堂々川ホタル同好会活動の本拠地。ホタルと花と砂留のメッカ。

日本登録有形文化財8基(2006年指定)を含む砂留群の保全並びにホタルと彼岸(悲願)花と絶滅危惧種の保護など小中学生から大学生までの協力を得て、奉仕活動を継続している。

*寒水寺―青雲の志を秘めた茶山詩前編巻一に登場する古刹。安政2年(1855)の大地震で被害を受けた神辺本陣御成門土蔵塀の修理に寒水寺から礎石を譲り受けていると。

*渡邊好右衛門義挙碑―「神辺ふるさと会」会長高橋孝一氏が「義民の郷」として、ふるさと町起しに選んだ義民の一人、渡邊好右衛門(下御領村庄屋)並びに下竹田村定藤仙助・北川六右衛門、道上村小林嘉忠治ら5人が処刑。

六、ふるさと体験かなべ史跡めぐり

ウイズコロナの神辺宿恒例行事

コロナ渦中、神辺町観光協会主催の体験型史跡めぐりも2年目、神辺町内5コースで月日を決めて催行された。菅茶山顕彰会は「茶山詩めぐり」コースに全面協力した。

「茶山詩めぐり」コース

【コース経路】

茶白山―神辺公民館「丁谷餞子成卒賦」詩碑―三界万霊碑―光蓮寺「十四日與嶺松師赴鞆浦途中口占」詩碑―萬念寺「夏日雜詩(三)」詩碑―紅葉堂前「神邊驛」詩碑―西福寺「西福寺賞梅」詩碑―廉塾―東本陣跡

「茶山詩めぐり」コースに参加して

監事 皿海 弘雄

10月11日 神辺町観光協会主催の「ふるさと体験史跡めぐり」に参加した。講師は黒瀬道隆氏。商工文化センターで乗車、先ず神辺

公民館前の菅茶山詩碑「丁谷饒子成卒賦」の解説を聞く。茶山と頼山陽の關係、茶山は廉塾の後継者にと望んでいたが、山陽が京都に上り不仲になっていた。やっと關係修復、十年振りに廉塾を訪ね、深夜まで語り合った。旅立ちの日、両者は丁谷の梅林で尽きることのない別れを惜しんだ。折から、「梅の香る里に夕陽が傾いて行つた」と詠んでいる。

次は川南丁の旧街道沿いにある「三界万靈碑」。これは村の出入り口に見られる道祖神で、西からの神辺宿入口を表すものと聞いた。旅人はこの碑を見てホッとしたことだろう。

次は町上にある光蓮寺で寺伝を聞く。当時の住職嶺松上人が詩僧で、茶山は詩友と共に再三訪れ、家族ぐるみの交際だったようだ。「十四與嶺松師赴輛浦途中口占」の詩碑がある。

次は萬念寺で寺伝と詩碑「夏日雜詩(三)」の説明を受ける。詩碑には茶山が好んだ柳を起・結聯に夜更けの廉塾風景が詠まれている。茶山は儒教で門徒ではないが生家菅波家の菩提寺であり、弟恥庵の供養をこの寺で執り行っている。



光蓮寺 詩碑説明



廉塾 漢詩を読む

ここから徒歩で七日市の紅葉堂呉服店前へ。そこは伝太閤屋敷跡で詩碑「神辺驛」の説明を受ける。後は紅葉堂の店内を見学。現在は呉服店だが以前は製菓業だったようで、昔から続く町屋は店舗・中庭・母屋・倉庫と随分奥の深い造りとなっていて老舗らしさを感じた。

続いて西福寺へ移動。廉塾と近いこともあり茶山は度々訪れ詩会等を開いていた。本堂前に「西福寺賞梅」の詩碑が建てられている。

続いて廉塾の広場で昼食後、倉田義朗氏から廉塾の案内と菅茶山顕彰会が特別展示した「茶山ポエム絵画10点」を鑑賞した。続いては講堂の前で茶山の漢詩を詠む体験コースである。本会顧問の鶴野謙二氏が講師で、閑谷学校「あいうえお論語」学習、最後は茶山の詩「梅」・「雪日」・「冬夜讀書」など原詩数首を参加者全員が、童心に帰って素読した。

商工文化センターまでの帰路、高屋川土手で、戦国時代、神辺城を攻めるため毛利氏が神辺旭高校上の要害山に陣を張った話や、秋丸(安藝国毛利の城)の由来など聞いた。

今回の史跡めぐりは、歴史ある神辺をより深く知る機会となった。各所で見た茶山の詩碑が文化の高さを自明にしている。

水野勝成の福山築城で神辺から多くの寺院が福山に移されても、跡地に岩田や駅家などから移された寺院が現在まで続いている事は神辺の豊かさであろう。また、史跡めぐりでは本会の役員さんが大活躍。素晴らしいふろさと体験ができた。只々、ありがとう。

展示会・講演会

一、県博「菅茶山関係資料」ご案内

草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)の『近世文化展示室』では、博物館所蔵の重要文化財「菅茶山関係資料」の中から、通年展示の「菅茶山と廉塾」に併せてテーマごとの特別展示をしている。以下取材メモ。

第16回 4月2日～5月30日

「菅茶山と蠣崎波響・大原吞響」の出会い

・蠣崎波響(1764～1826) 北海道松前藩主の子、家老職蠣崎氏を継いだ。寛政元年、アイヌと和人の間で、蝦夷騒動があった。この折、事態収束に協力したアイヌの酋長を描いた「夷酋列像」(寛政2年)が有。絵を南蘋派・円山派に学び、詩を能くした。

菅茶山と蠣崎波響は、寛政6年(1794)7月15日、京都で大原吞響(大原佐金吾)の月見宴を通じて初対面。8月15日、伏見巨椋湖で、北辺に帰る蠣崎波響を主客に総勢八人の宴会(月下巨椋湖舟遊図)を開いた。両者にとって忘れられない思い出となっている。

文化元年(1804) 茶山が江戸出府の際には3月19日、両者は寛政6年以来の再会。伊澤蘭軒、犬塚印南らと隅田川で舟遊、花火見物をしている。この後、二人は手紙のやりとりはしたが、会うことはかなわなかった。

文化15年(1818) 茶山は『大和行日記』の懐旧の情捨てがたく巨椋湖を再訪している。その時、存命だったのは、茶山・波響・金城の3名のみだった。そこで、茶山は、自らの詩と24年前の光景を一幅の絵(寛政甲寅中秋) 月下巨椋湖舟遊図に書き留めることを思いついた。茶山を「生涯の詩の師匠」と仰ぐ波響55歳が絵筆を揮い、文政元年(1818) 10月、この絵が茶山71歳の許に届けられた。

また、蠣崎波響画・岡本花亭賛「廉塾図」(文政4年 旧相馬邸蔵) は、蠣崎波響が廉塾を訪れたことはないにもかかわらず、岡本花亭が「10年前(文化8年(1811)) 廉塾を訪れたときの様子にそっくり」と画賛しているほどの出来である。ただ、誰が原画を描いたか解明されていない。

(参照 会報第29号 菅波哲郎氏)

第17回 6月4日～8月17日

「菅茶山と岡山の文人たち」の豊韻

①菅茶山と岡山の文人たち

～(主な) 作品に見る交流～

・『拙齋西山先生詩鈔』(備中鴨方西山拙齋の漢詩集 茶山撰 文政11年)

・『楳園集』(備中笠岡小寺清先の和歌集 茶山序 文政6年)

・陶板「黄葉夕陽邸舎」(茶山へ備前北方武元登々庵、作陶贈呈 享和2年)

・「春川釣魚図並詩」(備中鴨方姫井桃源を筆頭に天下の韻士30名が詩を贈っている。文政10年)

②菅茶山と岡山の文人たちく漢詩で遊ぶく

・文化11年、茶山、二度目の江戸出府の頃、岡山藩儒井上四明の詩を発端に、江戸でも豊韻(同じ韻を使った漢詩)のやりとりが流行、備中、備前などの文人などの間でも広がった。5月6日、茶山、江戸出府。出発直前の4月9日、井上四明から「豊韻」と『四明外詩巻』が届けられる。

第18回 9月14日～10月

「菅茶山が収集したモノ」(省略)

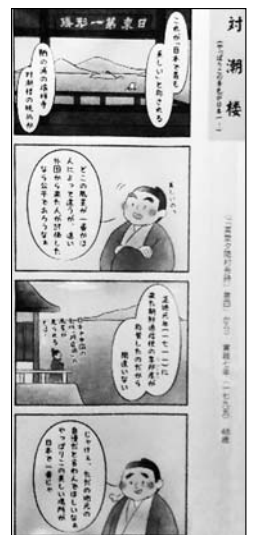
第19回 10月1日～11月28日

「菅茶山と鞆の浦」

HPに「茶山マンガ」アップロード

今回の「菅茶山と鞆の浦」では、江戸時代後期の鞆の浦の姿が紹介され、琉球王宮舞景図(琉球使節が音楽を奏でながら踊る様子)等の絵とともに菅茶山が詠んだ「対潮楼」も展示。

これは、正徳元年の朝鮮通信使の李邦彦は鞆の美しい景観を中国の「洞庭湖」に例えたことを踏まえての漢詩である。この詩を4コマ漫画に描き、備後弁で吹き出しが付けてあり分かりやすかった。



對潮樓

樓在備後鞆浦朝鮮使李邦彦等往來宿此賞嘆不已遂議製扁額曰日東第一形勝

評品江山人不同 江山を評品すること人ごと同じならず

傍觀遠客目應公 傍觀の遠客眼応に公なるべし

望看朱棟懸天半 望み見る朱棟天半に懸かるを

來見蒼岩挿水中 來たり見る蒼岩水中を挿すを

島嶼斷連松石影 島嶼斷連す松石の影

雲濤齡達帆檣風 雲濤齡達す帆檣の風

休言邦俗誇郷土 言う休かれ邦俗郷土を誇るを

果爾靈区甲大東 果たして爾が靈区大東に甲たり

(意訳)

*備後鞆の浦、福禪寺に、江戸時代、朝鮮通信使が来日の際定宿としていた客殿「對潮樓」がある。正徳元年(1711)、樓に宿泊した従事官李邦彦等がそこからの眺望を「日東第一景勝」(朝鮮より東で一番美しい景勝地)と賞賛、延享5年(1748)には、洪景海が「對潮樓」という墨書を残した。その文化的な価値を高く評価した茶山は親戚の菅良平(儒医)や豪商中村吉兵衛に依頼、その木刻

を完成。木扁額として弁天島と仙酔島を臨む客殿の鴨居に掲げられている。この扁額は福禅寺對潮樓朝鮮通信使関係史料の一つとして、平成29年ユネスコ記憶遺産に登録されている。(詩意)

どの山河を一番とするかは人それぞれ違う。客観的に見ると遠方の客の目は公平にちがいない。遠くを見やれば朱色の棟が天中に懸かり。近くを見やれば蒼い岩が海中に刺さっている。途切れ連なる島々に松や岩が影を落とし。雲は波のように広がり帆柱は風を受けて広がる。言ってくれるな日本人が故郷自慢をしていると。やつぱりそうだ神々しいこの景色は日本一

第20回 12月3日〜令和4年1月30日

「長寿を寿ぐ」

菅茶山の長寿を祝って贈られた作品や器物、70歳や80歳の節目に贈られた資料を中心に紹介された。今回も、漫画で茶山79歳の大海日に詠んだ詩にスポットを当てている。

「除日三首」菅茶山 遺稿六―三

低垂七十九哀翁

低垂 七十九の哀翁

半月爐邊臥似弓

半月炉辺に臥して弓に似たり

添歲嗟他來日少

歳を添える嗟く他の来日少きを

待春怪與幼時同

春を待ちて怪む幼時と同じを

with コロナ下、ネットサーフィン、お孫さんなどにこの漫画を読んで聴かせ、一緒に原詩

朗読されるのも一興。

理事 川崎 行輝

二、菅茶山記念館 第29回特別展

「菅茶山と頼山陽」 10月1日〜11月14日

福山誠之館同窓会蔵の作品など22点ほか(解説)

・天明8年(1766) 6月5日〜7月6日
茶山41歳、遊藝日記の旅

7歳の時に次いで、二度目の宮島旅行。広島
島の春水を訪ね、山陽9歳と初対面。「秀発
大人びている」の印象。

「自宮島還草津舟中」菅茶山 この旅中の
一場面。雨の宮島を描く。雨天でなければ、
錦帯橋訪問予定だった。

・寛政5年(1793) 茶山46歳

「禮卿作也追録于此」頼春水 48歳

刎頸の友春水の茶山評。「その道を議論で
きるのは山陽道で茶山だけ」と絶賛。

・寛政9年(1797) 3月17日

山陽、江戸出府の叔父頼杏坪同道の「東遊
漫録の旅」途上、茶山を訪ね一泊。

翌年、江戸からの帰途も、茶山を訪ねる。

この折、紀行文に「夕陽黄葉村舎」(キャプショ
ン)スケッチを添えている。

・寛政12年(1800)

山陽、父の名代として大叔父傳五郎(竹原)
の弔問に赴く途上、脱藩 京都で身柄を確保
され西帰途上、10月29日、神辺泊。宿舎で茶
山は藤井暮庵と見張り役を務める。山陽は、

11月3日帰広直後、自宅の座敷牢に幽閉され
る。享和3年12月、幽閉解除。その間、特に
許され、後の「日本外史」の研究に努める。

・文化2年(1805)

茶山58歳、西山孝恂と竹原へ入り、照蓮寺
で頼春水(山陽)による招宴に臨む。以後、
茶山は山陽の謂わば文芸・生活相談役を担う。

・文化6年(1809)

茶山、春水の親心を察し、廃嫡の山陽の救
済策として、山陽を廉塾都講に迎える

・文化8年(1811)

自らの学問大成のため三都志向の山陽、一
年余で廉塾を出走、弟子三省を連れ、京へ向
かう。茶山の不興は、仲々収まらず遣る方な
い余憤は詩などにも瞥見されるが、山陽「京
都開塾」に関わる了諾、山陽の詩・論稿など
文芸上の指導、文化10年、春水親子の和解調
停などに努めている。

・文化9年(1812) 特別展ポスター掲載
作品「梅雨懷郷」(頼山陽書) 上洛一年目の
梅雨。西の窓から故郷を思う詩。

・文化11年(1814) 茶山67歳

5月6日 江戸出府 5月16日 大坂の宿
に山陽来訪。同月21日、「勢田路上」で、山陽・
武元登庵兩人に見送られるが、詩では記名
を避け「送者」と表現。当時の茶山の山陽に
対する心境が窺える。

・文政5年(1822) 「牡丹宿蝶」茶山 vs 山
陽のキャッチボール。山陽の遊蕩癖を諷めた
ものと思われる。世人の戒めをこの花に託し

たものであろうとは山陽評。

・文政11年(1828)「山水図」梁川星巖画・日野資愛賛。茶山の一周忌、公家日野資愛が星巖と山陽を招いて、壁に掛けた茶山詩の韻を用いて旧懷を詠んでいる。

・文政12年(1829)「五十鈴川」母梅颯と伊勢神宮内宮に参拝。ひしひしと山陽のノスタルジアが伝わっていると解説員。

＊他に山陽―淳子の長男聿庵、山陽―梨絵の二男支峰、三男三樹三郎、支援者小石元瑞、恋人・女流絵師平田玉蘊などの作品が紹介。

三、「神辺本陣について」

10月19日 中条公民館

講師 菅波 哲郎氏

このほど、神辺宿歴史文化研究家 菅波哲郎氏(「神辺本陣」の子孫)が約7年の歳月をかけ全国各地の街道に現存する本陣・脇本陣の現状とそれらが地元の「まちづくり」にどのような役割を果たしているかをつぶさに現地踏査、『江戸時代の神辺宿 神辺本陣』(菅波哲郎著 2020年刊)に総括した。

講演要旨。

今から150年前の明治3年、参勤交替制度に伴う大名の公的休泊施設本陣制度が廃止され、多くの旅行者で賑わった神辺宿の二つの東・西本陣もその役目を終えた。

全国に存在していた本陣・脇本陣は、その数2千数百と呼ばれていた。

その基本的な施設は本陣部、居住部、生業部で、伝来資料として、本陣御用記録、勘定帳、関札などが残されている。

東海道五十三次の本陣数117軒、脇本陣71軒、総軒数188軒で「旧態を存す・一部存す・部分的に現存」に分類されている。

山陽道に関わっては、藤井宿、矢掛宿、脇本陣高草家、高屋宿、神辺宿、呼坂宿などがある。

全国の本陣・脇本陣の様相は様々で、母屋に玄関式台を備えている備えていない・正門を構えず玄関・敷台を備えている・本陣の遺構がない など。

旧態を存している本陣では東海道草津宿本陣田中家(国史跡)が最大規模。近くではご存知、矢掛宿本陣石井家(国重文)が、酒造関係建屋施設や道具が現存。

さて、ご当地神辺本陣は伝来資料、本陣建物と大名行列が描かれた現存する唯一の本陣。

四、「菅茶山ヒストリア」

11月16日 御野公民館

講師 本会副会長 黒瀬 道隆氏

「漢詩の達人 菅茶山ヒストリア」と題した歴史講演会。受講者は26名。折から、菅茶山記念館に学区内にある詩碑「御領山大石歌」の大屏風が展示、その見学会も後日催行予定とあって、菅茶山の生涯、茶山詩の特徴など

の基礎的な話の後、近世山陽道沿いの御領地区を訪れた菅茶山が遺した漢詩、和歌などの解説があった。受講生は地元の話とあって熱心に聴講した。(以下、レジュメ要旨)

(一)なぜ茶山は有名?

・漢詩『黄葉夕陽村舍詩』ベストセラー
・著書『福山志料』『筆のすさみ』『風俗御問状答書』など

・廉塾 現存する江戸時代の郷塾の建物

(二)茶山の系譜

○父は本庄屋菅波家(東本陣)から別家し、農・酒造業を営む

○兄弟姉妹 茶山は六人兄弟の第一子

○伯父高橋慎庵の影響を受ける。儒医。漢籍・和歌・古事記

(三)「郷塾取立に関する書簡」の中で(48歳)

○神辺は悪風俗の処で、村のお歴々や袴をはいている人までも博徒である。

○自分も20歳位まで、博打を打ち、酒色などの悪行もしていた。

○しかし、俳句や和歌を始め、書物を読み始めた。

○周囲の人は、「馬鹿よ」、「あほう」と指差し笑った。

○体が弱かったため、外出もあまりせず、書物を読んだ。また、表向きには医者になると言って書物を読み続けた。

○神辺に学種を蒔きたいとの夢を抱いていた。

(四) 京都遊学

第一回 明和3年(一七六六) 19歳 儒学・医学
第二回 明和5年(一七六八) 21歳 儒学・医学
第三回 明和7年(一七七〇) 23歳 儒学・医学
漢詩が評判になり始める。池大雅との出会い

明和8年(一七七二) 24歳 朱子学に転向
鴨方・西山拙斎と出会い生涯の友に
第四回 安永元年(一七七二) 25歳〜27歳
文人達との交流・出会い

安永2年(一七七三) 26歳
頼春水(頼山陽の父)に出会う。

安永4年(一七七五) 28歳。

私塾「金粟園」を開く、子ども対象

第五回 安永6年(一七七七) 30歳

第六回 安永9年(一七八〇) 33歳

5力月間 最後の遊学

(五) 茶山の塾経営

○28歳 私塾「金粟園」を自宅に開く

○44歳 新塾「黄葉夕陽村舎」を土手下に開く。

○49歳 「郷塾取立に関する書簡」を福山藩に提出。

○50歳 郷校「神辺学問所」(廉塾)認可

(六) 茶山詩の特徴 く茶山詩の世界へく

○『黄葉夕陽村舎詩』前編・後編・遺稿
○「宋詩に学べ」を唱導。身近な生活を題材に、平易な言葉で表現。

○詩の校正を、六如上人、頼春水、頼山陽、北條霞亭などに依頼し、修正を重ねる

○茶山詩の特徴

- ・政治批判詩 幕府のしがめ受ける恐れ
- ・農村詩 農村の風景、農民の生活
- ・子どものいる風景 子どもが大好き

*御野学区内の茶山詩碑

- ・詩碑・歌碑(各1基) 備後国分寺門前
- 詩碑「聯句戯贈如美上人」拙斎・晋帥
- 歌碑「訪ひ寄れば・・・」晋帥

・詩碑「高屋途中」後編巻二 上御領一里塚跡

・詩碑「御領山大石歌」八丈岩入口

(別紙解説文)

*御野学区内で詠んだ詩

・「九日同諸兄友登高鑿鑿山分得還字」

九日諸兄・友とともに鑿鑿山に登高し、分ちて還の字を得る 堂々川(山)

・「祐教上人索偃松詩」證林山明正寺

祐教上人偃松の詩を索む

五、「安政大地震と神辺宿の人々」

11月25日 神辺公民館

講師 郷土史研究家 菅波 哲郎氏

講演要旨

本題に入る前に入る前に、少し茶山に関わ

る草木の話をしめます。茶山が最初に開設した金粟園(金粟は木屋の別称)すなわち木屋は、朱熹(別号丹桂)が教育を行った白鹿堂書院(中国江西省)や岳麓書院(中国湖南省)の庭など、中国書院の主要な施設の庭などに植栽されています。何故、桂(木屋)が教育と関わりがあるのか。このことが明らかに出来れば茶山の教育への想いが、聊かでも明らかになるのではないかと。因みに廉塾の「槐寮」は茶山の居所ですが、「槐」は中国雲南省原産で「仁政(思いやりのある政治)」を具現する木」と認識されている。

ところで、最近、廉塾中門前の薔薇が中国原産の「庚申ばら」であることが分かりました。黄葉夕陽村舎の文政4年(1821)の項に「薔薇」の二文字の詩があります。即ち、廉塾の一隅に薔薇が自生していた。私は薔薇と言えば西洋バラを常に意識していましたが、これを契機に古の地域の人々が馴染み親しんできた薔薇を、私たちの日常生活の中に蘇らせればとの想いが募ります。

さて、本題(要旨)に入ろうと思います。

安政元年(1854)は全国各地で大地震があり、神辺地方では南海大地震がありました。神辺では「葛原勾当日記」と「菅波信道一代記」に詳細な記録を残しています。地震は11月3日か4日〜7か8日に発生。葛原勾当は牛窓に出稽古に出かけ、5日の晩方から大地震が

あつて、牛窓若宮神社へ避難し一夜を過ごした。揺れは収まったものの寒い夜風に困り、地元の住民は自宅へ帰り、或いは舟に避難する者もいました。12月14日まで余震が断続的に続き、勾当は17日八尋村の自宅に帰宅し、「面白からぬ年の暮れ」であつたと書いています。菅波信道は、「海山鳴動繁き故」、倒れて大地を相抑えたり、「家藏などもこけねじれ」、目もくらみ正気を失う者もいた。福山藩内とその周辺地域もさることながら、藝陽より東へ行くほど被害は甚大であつた。東海道四日市宿本陣では、火災が発生し一部の建物が焼失する（清水太兵衛日記）。

福山藩江戸屋敷では、10月2日、地震が勃発。翌3日、福山城下へ向け、飛脚が出立する。全行程約800kmを走破し、7日に福山城下役所に到着。藩役所は8日に江戸での状況について、「未曾有の大地震で上屋敷など大破損したが、殿様、大殿様、御前様、御子様らは別状なかった」と「触書」に記して、翌日の9日には各村へ触れている。

江戸大地震で被災した広島藩家中（52歳）が、広島への帰途神辺本陣に宿泊した。「惨状を思い起こす度に、立身出世は尚更に金の望みも更になし。畳の上で死ぬるのが最上」と、生死の狭間をさまよった体験談を話す。これを聞いた本陣の信道も、「欲も望みも要らぬと思った」と記している。

神辺本陣では被災した御成門の修復工事に着手、礎石は寒水寺本堂西裏の庭の巨石を貰い受け、運搬しやすいように長さ1間、幅7寸、二分割して積み重ね堀の柱を立てた。

一方、勾当は安政2年正月から日常を取り戻し、新玉の歌を詠み、出稽古・内稽古を始めています。

黄葉だより

一、小惑星「kansazan」と天文学 「子ども未来館」で顕彰を

「中国新聞」（5月16日付）に、「福山ゆかりの天文学家顕彰」グループが「黄道光の会」（代表 神谷和孝・児玉英夫・三谷千城三氏）を設立、「子ども未来館」（仮称）での顕彰活動にも取り組む」との記事が掲載された。会の名称は戦前の「瀬戸黄道光観測所」（瀬戸町）に因んだもの。

江戸時代、天文学に造詣が深かった菅茶山・甥萬年を筆頭に、多数の彗星や新星を発見したアマ天文学家本田実さん（1913～90）、探査機「はやぶさ」「あかつき」などの軌道計画に携わった故木村雅文さん（1959～2004 道三町）たちの功績を末永く顕彰する とのこと。

二、福大地元と絆結ぶ未来創造館 備後文化源、茶山・井伏承継へ

「中国新聞」（6月20日付）によれば、福山大学は昨年12月、新棟「未来創造館」（11階建）を完成、その3階に、産学共同の研究拠点「備後圏域経済文化研究センター」を開設した。同センター長青木美穂教授によれば、備後圏域経済面と一体となった文化面では江戸後期の廉塾主、菅茶山に繋がる思想が「誠之館」井伏鱒二の思想の共通性に着目、備後文化の独自性を見出す研究を進めたいと。

松岡幾男氏の「郷土の文人達」（御影九重坂日記）平成10年所載）にも、「およそ為人や作品はその人が育った手で撫でたような山脈、温暖で豊かな田園地帯という風土がもたらした所産」と見なし、平凡でありながら手堅い暮らしぶりを選ぶ気風、進取より保守。闘争より談合。諦めの早い楽観的な気質。無闇に権力に媚びず、諸諺を好んで身を躲している。茶山、葛原勾当、福原麟太郎、井伏鱒二、木下夕爾と続く系列で、さらには勾当からしげる、友人、宮城道雄に承継される蹊と定義づけている。

三、堂々川ホテル同好会 SDGs in 2021 「ホテル会報」通算200号

「ホテルと花と砂留と」をコンセプトとした「ホテル会報」第4号（8月29日付）が2006年4月の創刊以来16年にもなる節

目、「永続と協力こそ力」第2000号の記念すべき時を刻んだ。

「自慢話を一つ」で始まる土肥徳之会長の序には「本会は大正表彰を2007年、2011年、2014年、2015年の4回、そして広島県景観会議最優秀賞を2009年、最近では都市緑化機構会長賞及び日本水環境文化賞を受賞している」と。2021年度トピックスを顧みれば、

(一) SDGsを担う次世代継承者続々

地元御野小・中条小学校児童の彼岸花植栽&ゴミ拾い作業、福山大学砂留アイドル7などによる堂々川周辺の生物マップ作り（山陽新聞掲載）など、地域住民総動員の奉仕活動。遺憾なのは定例化していたグローバル事業JICA研修生の受け入れが新型コロナ等でここ2年間休眠中。

(二) マスディアなど、応援歌斉唱

「今年の彼岸花開花は昨年より10日ほど早い。」新聞5社が花便り掲載、テレビ3社も放映。市やコンベンション協会などがバックアップ。砂留を背景に花・ホタルの里が観光名所。地元民憩いの森としても知名度を大幅アップ。昭和時代のミニメント水車も設置。

(三) たゆまない努力の褒賞

ユニークなクラウドファンディングや堂々川彼岸花基金などで、資金源確保を計っているが、本年は食品容器環境美化協会からの助成金で、草刈り機の部品と安全保護メガネを

購入し、即使用を開始、安全と草処理美化の高速作業が可能になった。

何と言っても、平成18年4月立ち上げ以来、毎月、継続されている総延長1.7km、一千坪に及ぶ川原の植栽整備や清掃活動。それが、「全国砂留シンポジウム」などを通じて全国ネットの広がりを見せ、共感を呼んでいることに起因。

四、高橋孝一著

『びんごばあ』へのオマージュ

「備後弁かるた」静かなブーム

新春、「備後弁かるた」が市内の書店で発売されるなど、静かなブームを呼んでいる。元祖は本会員なら、ピンと来る高橋孝一氏の著書「びんごばあ」。2020年7月に亡くなる、さみしい越年を重ねている。同じ思いの「びんごばあちゃん」こと原田芳子さん（市内在住）が「方言の持つ豊かさ、故郷の文化を多くの人に知ってもらいたい」との希いと著者への敬意を籠めて、姪のイラストレーターKеikoさん（旭川在住）と44枚のカードを丹精籠めて共同製作。

この備後福山地方の方言辞典、初版は昭和61年、平成30年に改訂第14版が発行されている。

「まえがき」に「出郷の若人は参考書として、また遠く離れて生活しておられる方は、あなたが育てていただいた、ふるさとを想い出すよすがとして、ご利用ください。」

「行く水は 七つの海に 果てる」ともとこ世に 生きよ くのことだま」と結ばれている。

会員ひろば

アンケート「私の好きな漢詩文」

本会会員に、菅茶山の多くの漢詩や著作の中から一番好きな・心に残る漢詩文・語句などを。さらに、茶山詩以外についても同じ質問をし、会員交流と漢詩文に親しむ機会としたい。

今回は役員各氏の回答（敬称略 50音順）

質問

- (一) 茶山漢詩の中で、好きな漢詩・語句は？
*その理由・思い出など
- (二) 茶山詩以外で、好きな漢詩・熟語などは？
*その理由・思い出など

一、寄稿者 上 泰二

(一) 七十誕辰 菅茶山 後編巻七―十四

壮志非無才素短 壮志無きに非ざれど才もと短く

童心仍有事多愆 童心の有りて 事誤り多し

*米寿を来年に控えて、なお、この悔悟。喩え、生まれ変わったとしても、性懲り無く同じ懺悔を繰り返すことだろう。

(二) 憂きことの猶この上に積もれかし

限りある身の力尽さむ 熊澤蕃山

*「花の命は短くて苦しきことのみぞ多かり

き」(林芙美子)。花Ⅱ性別を超えた自分史と読み替えるべきだろうが、近年、わが教員時代と現今の学校教育を対比して、「To be, or not to be. That's the question」思ひ煩う」としきり。(ハムレット)

二、寄稿者 川崎 行輝

(一) 夏日雑詩 菅茶山 後編巻八一九

涼棚待月向溪濱 涼棚月を待ちて溪浜に向かう
 恰値前峯上半輪 恰も値う前峯半輪を上す

*菅茶山という神辺の偉人は知っていたが、学生の頃から漢文は苦手で、その作品には興味がなかった。しかし、第1回茶山ポエム絵画展の開催を承け、そのイメージづくりに取り組んだことを思い出す。

「画山水(梅)」や「蝶(蝶七首)」は何となく分かったが、ある友からの「夏日雑詩を描いてみたい」との思いに誘われ、一緒に大意と対比し、何度も読み返しながら作品を仕上げた。彼が入選したときの嬉しそうな笑顔は、今も忘れられない。

(二) 水滴石穿 すいてき せきせん

*軒下から落ちる僅かな水滴でも、同じところに落ち続けると、ついには固い石にも穴をあけてしまうことから、小さな少しずつのことででも継続すれば大きな成果をあげることができるという喩えとして用いられる。

芦田川の源流を辿ったことがある。最初は小さい水が、(大きくなろう)との野望はなくても、下流に向かうにつれて少しずつ少し

ずつ集まりながら、最後には大河となって瀬戸内海に注ぐ。

最初は難しい・無理だと感じることも、毎日の小さなコツコツと積み重ねる努力の大切さと難しさを乗り越えて頑張り続けることで克服することを座右の銘としてきた。

三、寄稿者 黒瀬 道隆

(一) 夏日雑詩 菅茶山 後編巻八一八

村婦夜深來慰勞 村婦夜深く来りて労を慰む
 左懷孩乳右盤飧 左に孩乳を懷き右に盤飧

*茶山詩には農村のありふれた生活に温な眼差しを向け、その場面を詠んだ詩が多い。干ばつで水不足。若い農婦は水番に出た夫のために夜食を持って来た。片腕に乳飲み子を抱き、片手に夜食を携えている。当に茶山の農村詩の真骨頂の作品である。

四、寄稿者 皿海 弘雄

(一) 常盤雪行抱弧図 菅茶山前編巻八一九

少弟啼飢兄泣凍 小弟は飢えに啼き兄は凍に泣く
 誰知他日並英雄 誰か知らん他日並に英雄なるを

*静岡御前が雪の中寒さと飢えに泣く幼児を連れている絵画から。「この幼児が天下を執る英雄になるとは」と詠んでいる。

漢詩の題材が、絵画に描かれたものを見て詠まれていることに驚いた。

(二) 偶成 朱熹(しゆき)

少年易老学難学 少年老い易く学成り難し
 一寸光陰不可輕 一寸の光陰軽んずべからず

*高校卒業前の書道の時間、黒板にこの漢詩が書かれており、その日は筆を執ることなく先生の指導のもとクラス全員でこの漢詩を吟じた。初めての詩吟体験だった。

五、寄稿者 小林 貞子

(一) 所見 菅茶山 前編巻三一四

落日殘紅在 落日 殘紅在り
 新秧嫩翠重 新秧嫩翠重なる

遙雷何處雨 遙雷何れの処の雨ぞ
 雲沒兩三峰 雲は没す兩三峰

*山に沈む夕日を見ながら国道を運転していた時、丁度御領のあたりであったか、どこからか「ギンギン ギラギラ」と夕日の曲が流れてきた。この詩の風景の様に思えた。

(二) 百聞は一見に如かず 「漢書」趙充国伝 自分の目で見ることの大切さ。

*菅茶山詩は何回聞いても、なかなか頭に入らないけれど、茶山学習会で勉強したら、その意味がよく理解できるようになった。

六、寄稿者 嶋田 時市

(一) 冬夜読書 菅茶山 前編巻三一四

雪擁山堂樹影深 雪は山堂を擁し 樹影深し

檐鈴不動夜沉沉 檐鈴動かず 夜沈沈

閑収亂帙思疑義 閑かに乱帙を収めて疑義を思えば

一穗青燈萬古心 一穗の青灯 万古の心

*身近に廉塾があり雪の降っている情景を思い浮かべることが出来る漢詩で好きです。

(二)宝船 藤野君山

寿海波平紅旭鮮

寿海波平らかにして紅旭鮮やかなり

遙看宝字錦帆懸

遙かに看る宝字錦帆の懸るを

同乗七福皆含笑

同乗の七福皆笑を含む

知是金銀珠玉船

知る是金銀珠玉の船

*この漢詩は、祝いの席に出席した時によく朗詠しました、身近に感じられる漢詩で好きです。

七、寄稿者

武田 恂治

(一)冬夜読書

菅茶山 前編卷三一四

閑収亂帙思疑義

閑かに乱帙を取めて疑義を思えば

一穗青燈萬古心

一穗の青灯 万古の心

*この漢詩は10年ほど前から詩吟を始めて一番多く、人の前で詠った詩です。260年祭・錦城流の初吟会等で詠い、茶山の詩の中では一番好きなものです。

(二)山行 杜牧

遠上寒山石径斜

遠く寒山に登れば石径斜めなり

白雲生処有人家

白雲生ずる処人家有り

停車坐愛楓林晚

車を停め坐に愛する楓林の晩

霜葉紅於二月花

霜葉は二月の花(桃花)より紅し

*現役時代に山登りを良くしました。定年後、

友人夫婦と東北を旅行した時十和田湖の傍にある八甲田山へ登りました。10月21日だったと思いますが、紅葉が綺麗で素晴らしい赤と黄色のコントラストでした。ケープルで八合目まで登ると、そこは雪景色でした。私は、レンタカーを酸ヶ湯温泉へ回送する為ケープルで下山した。

八、匿名希望

(一)画山水(梅)

菅茶山 前編卷五一二十

溪村三五戸

溪村の三五戸

一向絶風塵

一向 風塵を絶す

自種梅花後

梅花を植えて自り後

春来引外人

春来 外人を引く

*ずいぶん前のことですが、目に留まったのが古い鉢に植えられた古木に咲いた白梅でした。その花は楚々として、それでいて輝いて、神々しく見えました。それから、毎年季節が訪れると花を楽しませてくれました。山間に咲いた梅の情景(大小の違いはあれど)とものに似ていると感じました。

(二)学而第一「論語」

学而時習之

学びて時にこれを習う

不亦説乎

またよろこばしからずや

「有朋自遠方来」

朋あり遠方より来る

不亦説乎

また楽しからずや

人不知而不愠

人知らずしてうらみず

不亦君子乎

また君子ならずや

*久しぶりに友人達と食事に行った時、床に掛かっていた掛軸に、「」の語が書かれており、私も友人もわからないまま、それでいて親しみを感じました。店の人に読んでいただき、とてもほのぼのとした詩(論語)で暖かくなりました。帰ってから調べたり、時代劇映画の中に出てきたりで、より親しみを感じました。

九、寄稿者

藤田 卓三

(一)丁谷餞子成卒賦

菅茶山 遺稿卷四一十四

送者停筇客頻顧

送者は筇を停め客は頻りに顧みる

梅花香裏夕陽傾

梅花香裏 夕陽傾く

*神辺公民館前に詩碑あり。特に梅花の頃見たくなる。旅立つ山陽を見送る老いた茶山。夕陽の中、梅の香りが仄かに漂う。茶山と頼山陽との物語を想い今の自分が茶山に重なる。

(二)春夜

蘇軾(そしよく)

春宵一刻值千金

春宵一刻值千金

花有清香月有陰

花に清香有り 月に陰有り

*友人と夜遊びしていた若い頃、酔って徘徊する言い訳としてよく口ずさんだ記憶がある。老いた自分は、季節の移ろいに「生かされて」いる一ことを感じるが、春宵は特別である。春が待ち遠しい。

十、寄稿者

松岡 明美

(一) 所見

菅茶山 前編卷三十四

落日残紅在

落日残紅在り

新秧嫩翠重

新秧嫩翠重なる

遙雷何處雨

遙雷何れの処の雨ぞ

雲没兩三峰

雲は没す兩三峰

夕陽が西の空を染めている。植えたばかりの稲のみどりが夕陽に重なる。

*美しい田舎の風景が目には浮かんで来る。田植えの頃であろうか。子ども時代、農繁期田植え休みがあったことを思い出す。田植えを手伝うために学校が休みになり、田圃では大人の列に加わって早苗を植えた。大人が植えるスピードについて行こうと泥んこになりながら頑張っていたことが懐かしい。美しく懐かしい情景が浮かんで来る詩文である。

(二) 出師表(上奏文) 諸葛孔明

先帝創業未半

先帝創業未だ半ばならずして

而中道崩殂

中道に崩殂せり

今天下三分益州疲弊

今天下三分して益州疲弊す

此誠危急存亡之秋也

此れ誠に危急存亡の秋時なり

*1982年から始まったNHKの「人形劇三国志」を見て三国志のファンになり、本も読みました。特に心を打たれたのが孔明が二代目皇帝劉禅に差し出した「出師表」です。

「危機が迫り存続するか亡びるかの時、皇帝として私情に流されることなく、真心をこめて進言する者を大切にして公正で明らかな

政道を示してほしい。」という内容の手紙です。自分が皇帝になることを望む人も多い中、先帝の三顧の礼の恩に報いて劉禅の育成に誠意を尽くす姿に心を打たれました。

十一、寄稿者

安原 美津代

(一) 宿生田

菅茶山 前編卷四一七

千載恩讐尚不存

千載の恩讐二つながら存せず

風雲長為弔忠魂

風雲長(永久)に為に忠魂を弔ふ

客窓一夜聴松籟

客窓(旅館の窓)一夜松籟を聴く

月黒楠公墓畔村

月は黒し 楠公墓畔の村

*菅茶山47歳 妻宣と「北上歴一の旅行の途次生田祠(現神戸市生田区)参詣。楠の巨木、楠公墓碑などを見て、600年前の源平合戦や楠木正成兄弟の七生報国を誓う忠魂は茶山翁の心を深く打つものがあつたのであろう。

詩吟を習っていた私は、常陸宮臨席の詩吟大会で、この詩を聞いて感銘を受けた。

(二) 富士山

石川丈山

仙客来遊雲外巔

仙客来り遊ぶ雲外の巔

神龍栖老洞中淵

神龍栖み老ゆ洞中の淵

雪如紉素煙如柄

雪は紉素の如く 煙は柄の如し

白扇倒懸東海天

白扇倒に懸かる東海の天

*詩吟でこの詩を習い、何時か富士山に登りたかった。70歳記念に七合目まで登山した。青空に白扇を逆さまに吊るしたように頂上が見えるという表現がよい。想いが茶翁の「黄葉夕陽村舎詩」に重なる。

十二、寄稿者

山下 英一

(一) 御領山大石歌

菅茶山 前編卷一六

吾嫌世上多猜忌

吾は世上猜忌多きを嫌ひ

楽子無知屢來過

子の知る無きを楽しみて屢きたり過さる

此日一杯発幽興

此の日一杯 幽興発し

吾且放歌子妄聴

吾且らく放歌す 子妄りに聴け

私はこの世間に、他人への妬みが多いのは嫌だ。おまえ(石)がその様な世上に関係ない相手で嬉しく、一杯の酒を飲み心の憂さを晴らしに来た。

*現代の世相を見通していたような気がします。善い事は独り占め、悪い事は他人のせい。究極は関係ない人まで道連れにする。私は「大自然と会話し自らを律して最後は死を迎える」そんな人生でありたい。

(二) 画龍点睛

がりようてんせい

*物事の最も肝心なところ、物事を立派に完成させる為の最後の仕上げ。絵を描くときはプロ・アマに限らず真剣に絵に取り組んでいます。

水従方円器

水は方円の器に従う

*人も環境や付き合う人物如何で良くも悪くもなるということ。この教えと廉塾の手水鉢を一般の人にも知ってもらい、菅茶山と顕彰会を広めたい。



十勝碑林
枝垂れ梅

茶山ポエム絵画

2021年度茶山ポエム絵画展

豊かな子ども心に触れる作品一堂に

1月8日(土) 子ども達の豊かな心に触れる力作3224点の応募作品の中、504点の入賞作品が展示された菅茶山記念館で、授賞式が行われた。昨年同様コロナ感染予防対策のため、出席者は来賓と受賞者などに限定して行われた。

公益財団法人ふくやま芸術文化財団事務局長矢野隆正氏のご挨拶、来賓紹介に続いて最優秀賞8名に賞状授与が行われた。続いて、審査委員長の神辺美術協会会長石岡洋三氏から審査の講評があり、受賞作品についてご教授頂いた。

記念館展示会は、コロナ禍自粛のため延期され、3月18日から4月3日まで開催される予定。



入選点数 計504点

・最優秀賞 8点
・優秀賞 102点
・入選 394点

応募学校数

・保育所幼稚園 2園
・小学校 8校
・中・高校 10校



表彰式の一場面

最優秀賞受賞者は次のみなさん (敬称略)

・村上日向子(誠信幼稚園年長組)「梅」
・本田 葵唯(神辺小1年)「雪の日」
・和田 侑純(神辺小2年)「梅」
・猪原 明湊(竹尋小3年)「蝶」
・内田 海輝(道上小4年)「久し振りの晴天」
・小早川紅翔(御野小5年)「久し振りの晴天」
・池田 未唯(湯田小6年)「久し振りの晴天」
・岡田 聖羅(福山中3年)「ホテル」

2021茶山ポエム絵画展ラインアップ

菅茶山顕彰会独自企画

・深安地区医院展 15 医院協賛
8月1日～8月31日
・深安地区歯科医院展 7 医院協賛
11月1日～11月30日
・史跡めぐり協賛 廉塾前展示
10月11日
・神辺支所エントランス展(新設)
12月14日～12月27日
*計画したが中止したもの
・神辺町並み格子戸展(春・秋季)
・福山市役所ロビー展

編集後記

◇「万有引力」で知られるニュートンは悪疫ペスト渦中、大学の雑事から解放された余暇を思索に充てた。

◇彼ほどの博学にして、「私が知っていることは、真理の大海原に直結した海浜の小石や貝殻ほどのものにも及ばない」と。

◇論語に「知之者不如好之者 好之者不如樂之」之(萬事)知る喜びよりも、好きになること。それ以上に、楽しむことが一番大切なこと という。長寿の茶翁も同工異曲の詩論・処生訓を遺している。

◇グローバルズムと連日のコロナ関連報道等で、国語の元祖漢字と茶山詩が随分、肩身の狭い思いをしている。

◇その蔓延防止策と地方創生のためにも、詩聖が唱導した一粒でも多くの学(楽)種が蒔かれ、一粒でも多くの結実を望みたい。

上 泰二

◎顕彰会事務局

武田 恂治

◎会報編集委員

上 泰二、川崎 行輝、黒瀬 道隆
皿海 弘雄、武田 恂治、藤田 卓三
松岡 明美、山下 英一

◎ホームページ「菅茶山新報」

連絡メール <http://chazan.click>
info@chazan.click

◎印刷所 北川精美堂

(福山市神辺町川南一〇四三)
Tel 084-962-0355